



多摩ブルー・グリーン倶楽部

---

# 平成28年度例会・事業報告書

---

日時 平成28年12月14日(水) 午後2時～

会場 パレスホテル立川 4階ローズルーム



# 多摩ブルー・グリーン倶楽部 平成 28 年度例会・事業報告

---

## 目 次

- 1. 例会報告 . . . . . 1
- 2. 事業報告 . . . . . 6

## 多摩ブルー・グリーン倶楽部 平成 28 年度例会・事業報告

多摩ブルー・グリーン倶楽部では、平成 28 年度例会・事業を以下のとおり行いました。

### 1. 例会報告

#### (1) 第 21 回例会

- ① 日 時 平成 28 年 4 月 18 日 (月) 15 : 00 ~
- ② 場 所 たましん事業支援センター (Win センター)
- ③ 内 容
- 第 1 部
    - ・ 講演
      - 「私はこんなことを考えながら「強い町工場」を創りました」
      - 梅原 勝彦氏 (株式会社エーワン精密 取締役相談役)
  - 第 2 部
    - ・ 平成 28 年度事業計画の概要について
    - ・ 第 13 回多摩ブルー・グリーン賞 最優秀賞受賞企業プレゼンテーション
      - 新協電子株式会社 (多摩ブルー賞最優秀賞)
      - 武州工業株式会社 (多摩グリーン賞最優秀賞)
  - 情報交換会



#### (2) 第 22 回例会

- ① 日 時 平成 28 年 9 月 5 日 (月) 13:00 ~
- ② 内 容
- 会員企業見学「株式会社菊池製作所 (第 5 回多摩グリーン賞最優秀賞)」
    - ・ 講 演 株式会社菊池製作所 代表取締役 菊池 功 氏
    - ・ 工場見学
  - マッチング会「TAKAO599MUSEUM」
    - ・ ひがしんビジネスクラブ「オーロラ」の取組みについて
    - ・ ひがしん若手経営者の会「ラパン」の取組みについて
    - ・ 「多摩ブルー・グリーン倶楽部」の取組みについて
    - ・ 1 分間スピーチ
      - 会員企業 17 社とひがしんビジネスクラブ「オーロラ」、
      - ひがしん若手経営者の会「ラパン」12 社との名刺交換
      - 会を実施
  - 情報交換会 (懇親会)「高尾山ビアマウント」



# 第21回例会報告

## — 第1部講演 —

### 私はこんなことを考えながら「強い町工場」を創りました

例会第1部では、『私はこんなことを考えながら「強い町工場」を創りました』をテーマに、株式会社エーワン精密 取締役相談役の梅原 勝彦氏にお話をいただきました。

#### 講演内容

町工場が儲けにくいという現状において、弊社は経常利益率30%以上を創業以来ずっと維持しています。

私が自動旋盤やカムという部品を知ったのは、府中市の電子部品製造メーカーで働いていた22歳の時でした。商売の基本は「いい品を安く速く」ですが、その当時のカムは使いづらい、値段が高い、時間もかかるという代物でした。そこで私は1966年に独立してカム専門の会社を立ち上げました。

他の大手機械メーカーと違って、我々のカムは細かなニーズに対応でき、値段も他社の半値程度、また納期も早かったので、面白いほど儲かりました。その後は、より精密さを求められるようになり、私は、1台2000万円、会社の年商ほどの値段だった高価なNC型カム製造機を購入しました。品質が向上したカムを以前と同じ価格で提供すると、また競うようにメーカーから注文を受けました。

ほどなく、私はコレットチャックという工具に目をつけました。近い将来、旋盤はNC型が主流になり、カムの需要がなくなると感じたからです。カムがバカ売れしていた時期に、コレットの研究開発をスタートし、時間をかけて顧客に認めてもらえる品を作りました。カムのユーザーは必ずコレットも使うため、同じ販売網を使えたのも幸いしました。気が付いたらコレット部門でも一人勝ちでした。



今は、注文はFAX、納品は宅急便、集金も振込か書留などと非常に恵まれたビジネスができる時代です。この幸せに気づいていない若い社員に対して、私は引退前にもう一度「汗をかく」ということを教え込もうと、新分野を開拓するという苦勞を負わせました。新規事業は、摩耗した工具を回収して研ぎ直し、再度納品する「切削工具の再研磨」業でした。特殊形状の刃物の開発に10億円を投入し、最初は赤字でしたが、高い利益を出す仕組みが整うと、私は2007年に社長を退きました。

私が経営において常に考えることは、「今考えている仕事は世の中に必要か?」「その事業は利益が出せるか?」「業界のトップになれる可能性があるか?」この3つです。また「新しいことをやるのは仕事が好調な時」というのも気をつけました。新事業は失敗するリスクのほうが高く、しかし社員とその家族を経営者の判断ミスで路頭に迷わせるわけにはいけません。事業が好調な時なら「失敗したら戻る」こともできるからです。

好不況はありますが、「金を使うのは不況の時、好況の時は貯める時」というのも持論です。勝てる会社は、他がじっとしている時に動き回って資金を投入できる会社です。機械のオーバーホールや建物への投資、人の確保は不況時にすべきです。大手が募集をかけない時期は、将来会社の柱になるような人材がやってきます。

「社員が定年になるまでにローンが終わった住宅をもたせるのは、会社の義務」と私は考えています。どんなことがあっても経営者は社員を定年まで守るという姿勢を貫けば、社員も「自分たちの会社だ」という意識をもって会社を守ってくれます。この歯車がかみ合っている会社はきっとうまくいくはずですよ。

#### 講師 プロフィール Lecturer Profile

#### 梅原 勝彦 氏 [株式会社エーワン精密 取締役相談役]

1939年生まれ。父親の事業失敗のため小学校卒業後、12歳から工場で働き始める。1965年、実兄・幸雄氏と(有)ミツフ製作所を設立。その後、設備投資をめぐる兄とたもとを分かち、70年に(有)エーワン精密(現・(株)致知)を設立し、代表取締役社長就任。80年、同社を(株)エーワン精密に改組。90年には(株)エーワン精密を(株)エーワン商事に社名変更するとともに、(株)エーワン精密を設立し営業譲渡。代表取締役社長就任。2007年10月に取締役相談役となる。

# 第21回例会報告

## － 第2部講演－

### 第13回多摩ブルー・グリーン賞 最優秀賞受賞企業プレゼンテーション

例会第2部では、第13回多摩ブルー・グリーン賞の各部門において最優秀賞を受賞された2社の方に、受賞内容のお話をいただくプレゼンテーションを行いました。

#### 多摩ブルー賞最優秀賞 新協電子株式会社

10年ほど前のテレビ放送が地デジ化したとき、防災無線や鉄道・タクシーなどの業務無線も、同じテレビ周波帯に移動してデジタル化するという話を聞きました。そこで、インターネット回線を使ってアンテナ間を中継する「デジタル化に対応した伝送路の製品」をつくり始めました。これがμVOICOMです。

このμVOICOMは、大手企業にとっては非常に面倒くさい・つくりたくない機器です。例えば鉄道ならば、駅数や車両数など、鉄道ごとに仕様が変わるので、カスタマイズしないと非常に使い勝手が悪いのです。弊社はこういった量産化が難しい製品を、毎回カスタマイズして納品しています。CPUレスCPU基盤を採用し、ソフトウェアとハードウェアを融合させた組み込み式にして、柔軟に対応できる体制をつくっています。

私どもは、量産化、コモディティ化する前に撤退します。大手がやらない、もしくは撤退した部門、ニッチなニーズに応えるのが成功の秘訣だと思っているからです。弊社では「ブルーアイランド」といっていますが、大企業の大型船で入ってこられない浅瀬を見つけ、利益の高いリゾート地で暮らすイメージです。

そして、これはたましんに大変お世話になっている部分ですが、社会・地域へ貢献するためにも、板金を作る会社、メッキ処理をして塗装をして、文字を入れて……という一つの作業を多摩地域の企業に協力をお願いしています。多品種の小生産が可能なのは、中小のものづくり企業の連携があってこそです。



#### 多摩グリーン賞最優秀賞 武州工業株式会社

弊社は自動車の部品を主に作っていて、国内生産でもLCC（ローコストカントリー）価格を実現し、月平均900種類の部品を約90万本と、多品種を生産しています。最近では、腹腔鏡手術用の医療部品やパイプグラムという知育玩具も作っていて、パイプグラムはグッドデザイン賞をいただきました。

経営については、昔ながらの日本のものづくりに学ぶことも多く、特に3つの特徴があります。一つ目は「自社設備開発」です。材料と工程に合わせて、自分たちで使いやすい道具を作るという昔の職人さんの姿勢を模して、製品の仕様に合った設備を自社開発しています。汎用機に比べると必要最小限の機能で、コストも場所も半分以下に抑えられます。

二つ目は「多能工の育成」で、社員にさまざまな技能を習得してもらい多能工に育てます。弊社は、入社してすぐに最も難しいアルミ蝋付けという技術を学んでもらいます。こういった技術の伝承も、ものづくりの基本と考えます。

最後に、「一個流し生産」というのも特徴です。工程内に品質保証検査も組み込まれており、完成イコール品質保証になります。現場を信頼して任せています。

ずっと「100年企業」を目標に掲げてきましたが、創業から65年を迎えて、これからは「300年企業」を目標に更新しました。世代も時代も変わり、長く続いていくためには、もっとオープンイノベーションで、お互い持っている知識を寄せ集める必要があります。オール多摩、オールジャパンで頑張っていきましょう。



# 第22回例会報告

## － 会員企業見学－

### 株式会社 菊池製作所での講演・工場見学

「多摩ブルー・グリーン倶楽部」の会員企業と、東京東信用金庫のお客さま会員組織である「ひがしんビジネスクラブオーロラ」「ひがしん若手経営者の会ラパン」の会員企業の皆さまと一緒に、八王子市美山町の「美山工業団地」に本社を構える「株式会社菊池製作所(第5回多摩グリーン賞最優秀賞)」へ企業見学に伺いました。

「株式会社菊池製作所(多摩ブルー・グリーン倶楽部副会長)」は1970年の創業以来、“あくなき挑戦で未来を切り開く”をモットーに、精密試作部品、精密金型及び精密量産部品の製造、医療・介護および、各種産業用・家庭用ロボットの製造・販売を行い、『総合ものづくり支援企業』として、ありとあらゆる分野の新製品開発をサポートしている企業です。本社敷地内に「ものづくりメカトロ研究所」を併設し、社会貢献の一貫として、とくに独自開発商品の開発ならびに産官学での共同研究開発を積極的に行っています。



今回は、本社工場の見学の前に、取締役経営企画部長の乙川直隆氏から会社の業務内容について、そして代表取締役社長の菊池功氏には会社や社会貢献への熱い想いをお話いただきました。

菊池社長は福島県の飯舘村出身ということもあり、福島県に7つの工場を保有していますが、東日本大震災後の原発事故で飯舘村が避難指示区域となった後も従業員が避難先から工場に通い、操業を続けることで地域に貢献されています。

講演では、被災当時の飯舘村工場の様子に触れ、まずは「社員に健康被害があってはならない」と考えて「自分と家族のために動きなさい」と社員全員に伝えたこと、また会社単位で除染はできる限りの対策をとった、と振り返りました。

また日本の中小企業の課題に触れ、「日本のものづくりの技術は高く、中小企業が融合すればほとんどのものはでき



参加者全員で社屋前にて記念撮影

る。ただ、いいものを作るだけでは足りず、どう販売し、どう使ってもらおうのかという、マーケット部分が弱いように感じる。誰がどこでどのように使うのかを知り、製造後もメンテナンスを請け負うなど、細かなニーズに応じたサービス分野を開拓していくのは、大手メーカーよりも中小企業に可能性がある」と、医療・介護ロボットの市場で実感されている感想も交えながら、とても心に響くお話をいただきました。

その後、2班に分かれ工場とショールームを見学させていただきました。ショールームでは製品を実際に試すことができ、多くの参加者が「マッスルスーツ®」を着用したり、自立支援装置の使用を体験しました。



#### ひがしんビジネスクラブオーロラ

経営勉強会、講演会、異業種交流会や懇親会などを通して、経営情報の収集や人脈形成等を図り、会員企業の繁栄に役立てることを目的として、1,633社の会員で構成されています(平成28年3月末現在)。

#### ひがしん若手経営者の会ラパン

平成20年12月、東京東信用金庫主催の次世代を担う若手経営者の会として発足した226名の会員組織です(平成28年3月末現在)。

# 第22回例会報告

## － マッチング会&情報交換会－

### 高尾山の魅力を感じながらの相互交流

第2部では、「多摩ブルー・グリーン倶楽部」と「ひがしんビジネスクラブオーロラ」、「ひがしん若手経営者の会ラパン」の会員企業相互の交流を深めることや新たな連携の創造などを目的に、高尾山の麓に平成27年8月にオープンした施設「TAKAO599MUSEUM」にてマッチング会を行いました。その後、会場を「高尾山ビアマウント」に移し、情報交換会を行いました。



マッチング会では、「多摩ブルー・グリーン倶楽部」と「ひがしんビジネスクラブオーロラ」、「ひがしん若手経営者の会ラパン」それぞれの会の紹介を皮切りに、会員企業が6つのグループに分かれ、それぞれ1分間スピーチを行い、自己紹介や名刺交換などの交流を図りました。第20回例会ですでに顔見知りになっている方々も多く、活発な交流会となりました。



情報交換会では、参加者同士による活発な情報交換が行われました。前日までの大荒れの天気予報に反し、高尾山からは東京都心部までが見渡せる素晴らしい景色の中、盛況のうちに閉会を迎えることができました。



#### ■多摩ブルー・グリーン倶楽部参加企業(17社)

- 有限会社エニシング (第9回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 京西テクノス株式会社 (第4回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- エム・ケー株式会社 (第11回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 株式会社メルヘン (第3回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- たなべ物産株式会社 (第10回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 南観光交通株式会社 (第6回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 株式会社菊池製作所 (第5回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 白山工業株式会社 (第11回 多摩ブルー賞 最優秀賞)
- 勝田産業株式会社 (第11回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 一般社団法人調布アイランド (第10回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 株式会社未来樹脂 (第12回 多摩ブルー賞 最優秀賞)
- 株式会社ヤシマ (第2回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 株式会社河内屋 (第5回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 武州工業株式会社 (第13回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 京王電化工業株式会社 (第6回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 東京中小企業投資育成株式会社(支援機関)
- 信金中央金庫(支援機関)

#### ■ひがしんビジネスクラブオーロラ参加企業(2社)

- 一松硝子株式会社
- 協伸化学工業有限公司

#### ■ひがしん若手経営者の会ラパン参加企業(10社)

- 日本橋梁工業株式会社
- 関東合成工業株式会社
- 株式会社マルサ斉藤ゴム
- 株式会社ワーク衡業
- 有限会社アズ池田
- 三裕製菓株式会社
- 花菱産業株式会社
- 株式会社パール技研
- メック株式会社
- 矢田製帽有限公司

## 2. 事業報告

### (1) たまの力を活かす～新島交流ツアー～

会員企業の取組みを視察しようという事業の第1弾として、一般社団法人調布アイランド（第10回多摩グリーン賞優秀賞）の活動地域の一つである新島に出かけました。

「調布アイランド」プロジェクトは、調布市に飛行場があることを活かして、大島・利島・新島・式根島・神津島・三宅島から新鮮な魚介類や島野菜、そして島焼酎などの加工品を「飛行機」で運び、「調布市内の加盟飲食店を中心に流通させたい!」「島々と調布をともに活性化させよう!」というプロジェクトです。



当日参加は総勢9名。調布飛行場から、19人乗りの飛行機で40分のフライト。ちょっとしたお散歩感覚で、紺碧の海と白い砂浜の新島飛行場に降り立ちました。

役場や商工会をはじめ、あめりか芋農家、それを加工する酒蔵、くさや製造企業等の経営者と懇談でき、調布アイランドの活動の素晴らしさを知ることができました。また、新島特産のあめりか芋の植えつけ作業も体験でき、秋の収穫が楽しみになりました。

羽伏浦海岸では、記念写真を撮りながらのんびりとした時間を過ごしました。参加者は、どこまでも続く白い砂浜と青い海を眺めながら、次の経営戦略に思いを馳せられたのではないのでしょうか。



実施日：平成28年5月14日（土）～15日（日）（1泊2日）

訪問先：東京都新島村

（新島村博物館、新島村役場、親水公園、羽伏浦海岸、新島ガラスアートセンター、新島商工会、湯の浜露天風呂（足湯）、あめりか芋畑、宮原酒造、くさやの里など）

協力：一般社団法人調布アイランド

## (2) たまの力を活かす～ボランティア～

会員の相互連携による地域貢献活動として、八王子市川町にある都有地の森林草地保全活動を実施しました。当日は気持ちのよい秋晴れのもと、会員企業の従業員やご家族、事務局と一緒に汗を流しました。

実施日：平成 28 年 10 月 29 日（土）

内 容：森林草地保全活動（下草刈り）・リース作り体験

場 所：高尾の森自然学校

協 力：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

合同会社いとへん（第 12 回多摩グリーン賞特別賞）



## (3) たま未来共創会議

たまみらい共創会議から生まれた新たな事業分野のテーマ「まちづくり×防災（防災情報を付加した街づくり）」が、東京都の平成 28 年度新規事業である「新事業分野創出プロジェクト」の事業テーマとして採択され、9 月 27 日（火）に会員向けに説明会を開催しました。

概 要：各会員企業が取り組む社会課題の解決に向けた協議を実施し、課題解決につながる製品や仕組みをつくるプロジェクト。

目 的：会員企業が取り組む社会課題の解決のために、会員企業が有する技術・ノウハウを融合して新たな事業分野やビジネスモデルを創出し、多摩地域がイノベーションの最先端地域となることを目指す。





#### (4) 「2016 “よい仕事おこし” フェア」 出展

城南信用金庫主催の展示会に、「多摩ブルー・グリーン倶楽部」ブースを共同出展しました。他の出展者や大手バイヤーとの活発なビジネスマッチングの機会となりました。

開催日：平成 28 年 8 月 2 日（火）、3 日（水）

会 場：東京国際フォーラム

参加会員企業：4 社



#### (5) 多摩未来奨学金への協力

公益財団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（以下、ネットワーク多摩）が主催する「多摩未来奨学金」に協力しました。

協力内容：寄附実施 6 社 100 万円（平成 28 年 11 月末）

以 上





*BLUE  
&  
GREEN*

